



青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸を結ぶ自然歩道「みちのく潮風トレイル」の全線が6月9日、開通します。

全長約1千キロ。歩くための道として、環境省が既存の道路を、みちのく潮風トレイルとして設定。海岸線を中心に、丘陵や河川など東北・太平洋地方の自然に親しみ、長距離を歩く旅「ロングトレイル」を楽しめるのが魅力です。名取市内を通過するルートもあり、四季折々、装いを変える沿線の景観や地場の味覚を堪能することも。

今年4月には、閑上地区にハイカー（徒歩旅行者）への情報提供などを担う「名取トレイルセンター」も開所。気軽にロングトレイルを体験できる環境が整いました。

寒さはひと段落。日差しが暖かい初夏は野山を歩くのが楽しい。全線踏破を目指もよし、仲間と会話を楽しみながら短い区間を楽しむもよし。楽しみ方は十人十色です。

行楽シーズンたけなわ。穏やかな風に誘われ、さあ、徒歩旅行へー。

早足で、時には立ち止まってしまうのんびりと東北・太平洋地方を巡りロングトレイル。舞台は青森―福島を結ぶ一筋道「みちのく潮風トレイル」です。

自然が生み出した地形地物や食べ物、沿線で暮らす人びと。太平洋沿岸は季節と場所によって多様な表情を見せま

す。たとえば海岸線と丘陵部が隣接する漁業集落があったり、市街地や農地が開ける平野部があったり、鋭い湾が連なるリアス式海岸があったり。

寒流の親潮と暖流の黒潮がぶつかる三陸沖は「世界三大漁場」の一つに数えられ、春夏秋冬、豊かな恵みをもたらします。

そのほか、日本一の総延長を誇る運河群、多彩な生物相を形成する汽水域など見どころはいくつも。



海の気配を感じ進むロングトレイルは、鎮魂の祈りと復興の足音に触れる旅でもあります。

東日本大震災で深手を負った太平洋沿岸には、物故者を悼む慰霊碑が建ち、今も復興工事が進みます。

昨年末にすべての復興公営住宅が完成し、先月には、新たなまちのお披露目「まちびらき」も開かれた閑上地区。

真新しい学校や公民館、商業施設などが並びます。ここが本市のみちのく



潮風トレイルが始まる場所。

閑上大橋から、復興公営住宅や日和山、名取トレイルセンター、北釜地区、仙台空港などを経て岩沼市内に至る約10キロの行程です。

仙台平野に開ける市街地と田んぼ。漁港やビニールハウス群を横目に進めば、仙台空港に降りる旅客機に目を奪われます。この道は名取で暮らす私たちの生活をなぞる道のように。地形の起伏が少なく歩きやすいのも特徴です。



青森県から福島県まで、地域ごと、季節ごとに異なって見える雰囲気や道々を楽しみ歩く。

「見落とされたものの中に大事なものがあ

る」。編み上げ靴とリュックサック姿で全国をくまなく歩き、人びとの暮らしを記録し続けた民俗学者・宮本常一は、著作の中に、たびたびこう記しました。

人間の平均歩速は約4キロともいわれます。雨が降れば濡れる、夏は暑い、冬は寒い。向かい風が強ければ前進するのも骨が折れる。

四通発達した現代、それでも歩く旅を楽しむ意味は、生身で自然や風俗に触れる喜びなのかもしれません。

瞬く間に入れ替わる景色に慣れた日々の暮らしのなかで、見落とされたものに触れる歩く旅へ。

準備を万全に整え歩く旅へ

青森県と福島県を結ぶ「みちのく潮風トレイル」。約1千キロの行程の途中には、情報提供や休息などを担う施設が青森県八戸市や岩手県田野畑村など計6か所あり、歩く旅を楽しむハイカーたちを支援します。

ゆりあげ港朝市の隣に今年4月、開所した「名取トレイルセンター」もその一つ。みちのく潮風トレイルの拠点として環境省が設置。ほかの施設同様、トレイルマップ（沿線案内）のほか、「工事中の場所がある」「熊が出没する可能性がある」といった危険情報も入手できます。荷物を収容できる棚やシャワー設備なども備え、徒歩旅行者がひと休みし、出発に備える場所としての機能も。

「ロングトレイルを安全に楽しむためには十分な情報収集が不可欠。しっかりと計画を立てて歩いてほしい」と同センター。旅立つ前の積極的なセンターの利用を呼びかけます。

沿線6施設で情報収集を



名取トレイルセンターは、徒歩旅行を楽しむ人だけでなく地域の人たちも利用可能。旅する人と地域住民の交流が生まれる拠点としても期待される。

名取トレイルセンター ☎398-6181

入館料 無料 休館日 火曜日、1月1日

開館時間 9:00~17:00(12月~3月は16:00閉館)

HP <http://www.mct-natori-tc.jp>



みちのく潮風トレイル Michinoku Coastal Trail

